

H29年度 西陵中学校 3年生実施による全国学力学習状況調査結果から

今年度の全国学力・学習状況調査は、国語と数学の2教科で4月に3年生で実施されました。調査結果が8月下旬に届き、その結果から各教科並びに生活習慣における本校3年生の優れている分野(強み)や不足している分野(弱み)について分析をしました。これらの分析をもとに、優れていると考えられる分野での実践継続や、不足していると考えられる部分の力を伸長する授業実践の工夫や生活改善につなげ、さらに充実した学校生活を送れるよう取り組んでまいりたいと思います。

本年度の調査項目について

主として「知識」に関する問題 (A)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題 (B)

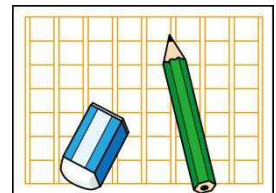
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・生徒に対する調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

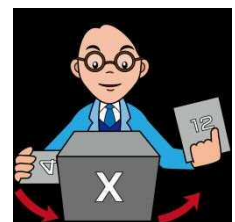
<国語>

正答率を見ると A・B 問題で全国平均及び県平均と並んでおり、「知識」と「活用」の両面で満足いくものでありました。基礎的な知識や技能が概ね身に付いている状況であるといえます。漢字を正しく読み書きすることや目的に応じて資料を効果的に活用したり、必要な情報を読み取ることに強みがあります。しかし、A・B 問題に共通して読む能力について苦手であるようです。日頃から教科書教材だけでなく、幅広い文章教材を活用して様々な文章に読み慣れさせるよう取り組みを継続し、文章の中の時間的、空間的な場面の展開などに注意して文章全体を読んだ上で考えるように指導し、より一層充実したものにしたいと考えています。



<数学>

正答率では A 問題で全国平均を上回っており、B 問題では全国平均及び県平均と並んでいます。特に A 問題の「数と式」に関しては、満足できるもので、分数の乗法の計算、実生活の場面でのある数量が正の数と負の数で表されることの理解が深まっています。プリントやワークシートの活用が出来ており、まじめに取り組むことができ、力がついてきているといえます。しかし、「関数」に苦手意識があるようです。具体的な事象における2つの数量について一方の値を決めれば他方の値がただ1つ決まる関係を確認する活動を重視し、問題解決のために表した表・式・グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させていきたいと考えています。



<国語と数学共通>

国語と数学に共通して無回答率がやや高い設問（記述式）が見られました。苦手なことはあきらめてしまう傾向にあるようです。日頃の授業において解き方が分からない時、諦めずにいろいろな方法を考えたり、最後まで粘り強く取り組む姿勢を大切に、その姿を評価していくことが必要だと考えております。幅広い内容の応用問題に取り組むなど、できる限り数多くの数学的活動を取り入れた問題解決学習を心がけることで、子どもたちの弱い部分を伸ばしていきたいと考えます。



また、この調査には教科以外に生徒質問紙というものがあります。生徒質問紙の調査とは、該当学年の生徒を対象にしたアンケート調査で、前述したように学習状況や生活状況について回答しています。これらの回答から見えた結果を基に、本校の生徒たちの強みや弱み（課題）を紹介します。



「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という問いに対して大半の生徒が肯定的な回答をしており、満足感・達成感や成就感を味わっていることが伺えます。さまざまな物事を最後までやり遂げる経験を今後も積ませることにより、生徒たちに社会の中で力強く生きていくために必要な「うるおいのある活きた学力」を身につけさせることが必要だと考えています。また、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問では否定的な回答もあり、難しい問題でもあきらめずに解こうと努力することにも結びついていることから、入学当初から学校生活全般において難しいことでも失敗を恐れずに挑戦しようとする気持ちを認め、励ますような指導・助言を積み重ねていくようにしていきたいと思えます。

学習面では、「国語の授業はよく分かりますか」「数学の授業はよく分かりますか」という質問では、全国平均及び三重県平均を大きく上回り、肯定的な回答をする生徒が多くいました。この思いを生徒の確かな学力につなげていくために、復習・宿題・定着確認テスト・計算練習などを充実させ、継続的で計画的な授業展開に努め、毎時間の授業の内容、ねらいを明確にし、生徒の目的意識を高める授業づくりを目指していきたいと考えます。また、少人数指導の利点を生かし、生徒の理解度や習得の様子を的確に、詳細にとらえながら、質問しやすい雰囲気や環境を整えるための人間関係作りにも配慮し、生徒の発言を有効に活用する授業の展開を心がけていきます。

自己肯定感を問う「自分には良いところがありますか」という質問では生徒の半数以上が肯定的な回答をし、自分有用感を問う「人の役に立つ人間になりたいと思えますか」の問いでは、多数の生徒が肯定的な回答でした。学年が上に上がるにつれて自己肯定感への数値が低くなりますが、これは、人間関係や自我の目覚めから自分の個性や長所に対し、厳しい目を自分自身に向けている表れだと思えます。

「学校で友達に会うのは楽しいですか」という問いには、大半の生徒が肯定的に回答しており、思春期の真っ只中にいる人間関係が複雑な時期においても友達という存在は大きなものであることがわかります。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対しては多くの生徒が肯定的な回答をしています。このような思いやりのある生徒が育っていることが何よりもうれしく思えます。

全体を通して基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く、家庭や学校での生活が充実しているように感じます。生活習慣と学習習慣とは密接に関係しており、学校での生活指導に対する家庭、地域の理解や協力、支援が大きく影響していると思われます。家庭、地域と学校の連携をより一層すすめていきたいと考えます。

一方、ゲームやインターネット、携帯・スマートフォンの使用ルールに関する意識は安全教室等の効果が出てきたものの、まだまだそれらに割く時間が多く、学習時間の確保については課題も残っています。また、いじめに対する意識についてもさらに注目していかななくてはなりません。

学校は、これまで以上に授業（宿題を含む）の充実や自ら学ぶ姿勢を培う学習指導を推進し、いじめに関する意識の向上のため、心の教育にもより一層力を入れて取り組んでまいります。